

第12回熊谷守一大賞展

中津川市（付知町）は、洋画家・熊谷守一の生誕地です。郷土が誇る熊谷守一画伯を市内外に顕彰するとともに、その功績を次世代へ伝えていきたい。その願いを込めて第12回熊谷守一大賞展を開催します。全国から応募があった278作品の中から厳正な審査が行われ、大賞1点、優秀賞2点、特別賞1点、奨励賞5点を含む、入選作品61点が選ばれました。

【審査員(敬称略)】 ■熊谷樞（画家・熊谷守一美術館館長）※体調不良により審査会は欠席
■佐々木豊（画家） ■村田真宏（前豊田市美術館館長）
■古川秀昭（画家・前岐阜県美術館館長）
【協賛】（公財）熊谷守一つけち記念館

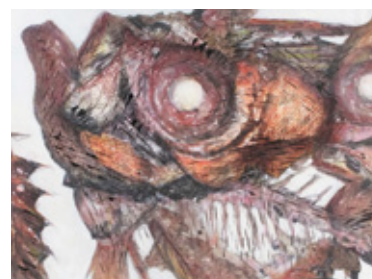
大賞 / 「^{はいじょう}廃城・^{なつくさ}夏草の^ふ賦」 石井好道(大阪府)



【審査員講評】 (F50号)
城址の石垣など一見よく描けた写実作品に見える。しかし注意深く見ると、画面の中央部分では視点をずらした時間と空間による光景を描いている。するとなんでもない風景が、突如異次元の何かが起きる予感を感じさせられる。蝶の配置にも優れた自然観照眼とそこに秘められた非日常の発見が確かな技法によって表現されている。

特別賞 / 「Fish II」

村上元彦（名古屋市）



(F40号)

【審査員講評】
油彩画が多い中での版画の秀作である。活魚であるよりも画面上での骨や頭部の眼玉などが魚の本来の生命力を暗示する見事な観察力と表現力の評価である。まさに熊谷守一の生命力の追及にも通じる姿勢であろう。

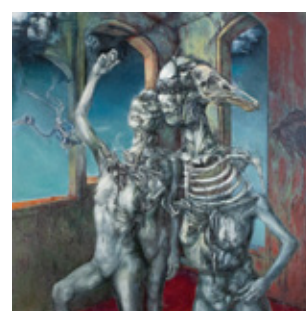
優秀賞



「にわたずみ I」
武藤はるか（茨城県）
(S50号変形)

【審査員講評】
題名から察すれば、
流木や水で流された
漂着物で構成された

作品であろう。水害や自然災害による現代社会の一側面を鋭い視点で捉えている。作者の狙いは人間の知恵と技術で成熟した高度な社会に対する警鐘なのかもしれない。



「彼方」
萩谷かおる（横浜市）
(S50号)

【審査員講評】
賞選考にあたっても
意見が分かれたが、画
面の構成力、完成度の
高さが優秀賞の決め手になった。背景の飛ぶ鳥の
骨格や解体された人体の有機性などシュール的な画
面を醸し出しているのだが、何か意味ありげな段
階で終わっているのが残念だ。次回に期待したい。

奨励賞



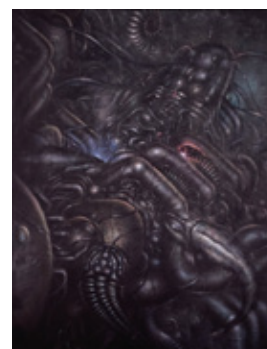
「紡〜ありがとうをみつけたよ〜」
伊集院正（宮城県）(S50号)



「オニの郷」
後谷達門（富山県）(S50号)



「熊野曼荼羅(色川)」
楠瀬伸和（和歌山県）(S50号)



「転生」
長谷川光一
(名古屋市中区) (F50号)



「喫茶喫茶」
林緑（埼玉県）(F50号)

関連企画

熊谷樞特別展
「紅葉の山々」
令和4年3月27日(日)
まで好評開催中！

会場/熊谷樞つけちギャラリー
熊谷守一大賞展会期中は
特別開館・入館無料です。

熊谷守一画伯の次女であり山
岳画家の熊谷樞氏の展覧会を
開催します。



第12回熊谷守一大賞展

入選作品展示会

12月5日(日)～12月16日(木)

開館時間/9:00～16:30

会場/アートピア付知交芸プラザ

審査員・村田真宏先生による講評会（申込不要）
時 12月5日(日) 14:30～(予定)

入館無料
会期中無休